

テーマ：わくわくカラー。

対象年齢：3歳児 16名 品川区立東中延保育園

テーマ設定の理由 戸外活動や製作で色に興味・関心が高くなっている子どもたちの姿から、遊びの中で様々な色を知り、驚きやわくわくしながら色を使って遊ぶことへの興味・関心を深めるため。

◆事例①～色ってなあに？～

活動のねらい 色を選んで見立てたり感じたことを表現したりすることを楽しむ

活動内容 <製作> 保育室で好きな色のジュースを作る

環境設定 四角・丸・三角に切った折り紙（8色）、刷毛、液体のり

子どもの様子 保育者が手作りミキサーでジュースを作る導入を見たことでジュース作りに興味がわいていた。折り紙の色を見て、食べ物に見立て、味、冷たさを言葉でも表現して夢中になっていた。

振り返りと気づき 生活で経験したことを再現し、満足するまで遊ぶことで探求の芽生えとなっていた。



テーマ：わくわくカラー

全園児対象

◆事例② 色が動く？シャボン玉アートに参加する

活動のねらい

- ・シャボン玉ショーに参加し、色の変化の不思議さや動きの面白さなどを感じる

活動内容

- ・シャボン玉ショーに参加し、シャボン玉アートを観たり、シャボン玉の中に入ったりする体験をする

環境設定

- ・シャボン玉アートショーを園に招く
- ・正面の壁面に暗幕をつける
- ・1部は1、2歳児、2部は3、4、5歳児がシャボン玉アートに参加できる空間にホールを設定する

子どもの様子

- ・次々に出てくる様々なシャボン玉を目で追い、手を伸ばして触ろうとしたり、自分が感じた色をつぶやいたりする姿が見られた。3、4、5歳児は、光の入り方やシャボン玉の動きで色が変わることに気づき、「色が動いている」「キラキラ光っている」「虹色に見える」と表現していた。

振り返りと気づき

- ・夏の間、泡遊びを楽しんだことから、シャボン玉を「あわわ」と表現する1、2歳児の姿があったり、色が変わっていくことに「色が動いた」「色が消えちゃった」と表現する3、4、5歳児の姿があったり年齢発達による感じ方や表現の仕方の違いがあることに気づいた。また、身近なハサミやハンガーなどを使ってシャボン玉が作れることをバブリン先生に教えていただき、すぐに実践したい意欲も見られていた。今回のシャボン玉アートを通してたくさんの刺激を受けたことを、今後の保育に生かしていく。



テーマ：わくわくカラー..

対象年齢：3歳児 16名

◆事例③～子どもが思うシャボン玉ってどんな色??～

活動のねらい

好きな色を使ってシャボン玉を描くことを楽しむ

活動内容

＜製作＞シャボン玉の絵を描く

環境設定

絵具を机ごとに設定する (①赤、ピンク、紫 ②青、水色 ③黄色、オレンジ

④緑、黄緑 ⑤白 他に黒、パールオレンジ)

子どもの様子

シャボン玉ショーや保育室のシャボン玉の掲示を見て、子ども一人一人が自分のイメージするシャボン玉を絵の具の色で表現したり色付けたりすることを楽しんでいた。一つの丸を丁寧に塗る子もいれば、色を混ぜて新しい色との出会いを楽しむ子もいた。色が混ざり合って、今まで見たことがない色を見た時に「ペンギンの色になった！」や「虹色になった！」「さつまいもの色になった！」など今まで経験したものや見たことのあるもので表現する子もいた。

振り返りと気づき

何色であるか表現できない、既成概念のみではない色の発見があり、それを「ペンギン色」や「さつまいも色」など3歳児ならではの固定概念のない自由な表現の仕方でも色に触れ合うことができた。今回の活動を通じて、色が混ざって変化していく面白さや不思議さを感じることができた。新しい色に出会えた時、子どもは嬉しそうに保育者や友達と共有しようとする姿があったので、その姿を見逃さないように今後も子どもたちがわくわくする色に関われるような保育をしていきたい。

